

米国の労働者階級を擁護する

メリーアリス・ウォーターズ著



In defense of the US working class

MARY-ALICE WATERS

Japanese translation version 1.1 – 2019-06-02

メリーアリス・ウォーターズー著者、編集者、寄稿者として

【著作】

- ・我々の歴史はまだ書かれている：キューバ革命の三人の中国系キューバ人将軍の物語（二〇一七年）
- ・米国での社会主義革命は可能か？（二〇一六年）
- ・米国の野蛮な司法制度に直面するのは貧しい者たちだ（二〇一六年）
- ・化粧品、ファッション、そして女性の搾取（二〇一四年）
- ・キューバとアンゴラ：アフリカと我々自身の自由のための闘争（二〇一三年）
- ・キューバの女性：革命の中の革命の達成（二〇一二年）
- ・資本主義とアフリカの変遷（二〇〇九年）
- ・米国政治の変化の表相（二〇〇二年）
- ・パスファインダーは、十月革命と共に生まれた（二〇〇二年）
- ・キューバと来るべきアメリカ革命（二〇〇一年）
- ・女性解放と、労働者階級の進路（一九九二年）
- ・チェの労働者階級への遺産とキューバの是正プロセス（一九九一年）
- ・一九四五年：米軍兵士は「ノー」と言った（一九九一年）
- ・トーマス・サンカラは話す（一九八八年）
- ・フェミニズムとマルクス主義運動（一九七二年）
- ・ローザ・ルクセンブルクは話す（一九七〇年）

編集 メリーアリス・ウォーターズ

版權 ©Pathfinder Press 2019 パスファインダー・プレス

ISBN 978-1-60488-107-3

Library of Congress Control Number 2018965050

表紙デザイン トニー・ゴートン

前表紙 ケンタッキー州フラン克福ート、二〇一八年四月、州議会議事堂で年金削減の提案に抗議する教師の集会。（アレックス・スリッツ/アソシエイトド・プレス）

後表紙 フロリダ州ジャクソンビル、二〇一八年十月、元囚人の投票権の回復を要求
する行進（イテール・イスラエル/フロリダ州権利回復連合）

パスファインダー

www.pathfinderpress.com

電子メール：pathfinder@pathfinderpress.com

目次

著者の紹介	5
序文 マルティン・コペル	6
米国の労働者階級を擁護する メリーアリス・ウォーターズ	12
クリントンからトランプ：米国労働者はいかに反撃したか	
パネル参加者の伝記と発言の概要	35
米国鉱山労働組合の戦いの歴史 ラジオ・ハバナ・キューバ	46
索引	
写真	
二〇一八年メーデー、ハバナ	11
国際メーデー科学会議、二〇一八年四月ハバナ	13
二〇一八年米国の教師、バス運転手、その他の学校従業員のストライキ	18-19
ストライキ中のトラック運転手が警官や「特別代理人」の強襲を撃退する、 ミネアポリス、一九三四年五月	24
米国軍隊や軍需産業で人種差別に抗議する；一九四二年； 女性鉄道労働者、一九四三年	27
アラバマバスボイコット、一九五五年； フィデル・カストロがハバナ大衆集会で演説、一九六二年	29
現役の軍人がベトナム戦争反対デモの先頭に行く、サンフランシスコ、一九六八年	31
「黄色ベスト」抗議行動、フランス、二〇一八年； 勝利の解放戦士、ベトナム、一九七五年四月	33
米国炭鉱労働者の戦い：一九八一年、一九八九年、一九四三年	48-49
●ページ番号はリライトしたため整合していません。（鎌田）	

著者の紹介



メリーアリス・ウォーターズ¹は、一九六七年から社会主義労働者党²全国委員会のメンバーで、パスファインダー・プレス³の社長と雑誌ニュー・インターナショナル⁴の編集者を兼任している。彼女は、一九六〇年代初め、米国の制度化された人種分離ジム・クロウ制度⁵を打倒した大衆的闘争の抬頭とキューバの前進する社会主義革命によって、革命的労働者階級の政治路線に獲得された。ウォーターズは一九六二年青年社会主義連盟⁶（YSA）、一九六四年社会主義労働者党（SWP）に加入した。彼女は SWP の活動、特にキューバ革命の防衛や女性解放の闘争、を米国および国際的に指導する。

ウォーターズは一九六七年―六八年、YSA の全国委員長でした。彼女は一九六八年、フランスの学生と労働者の蜂起をミリタント新聞⁷に報道した。そして、一九六九年から一九七〇年初期までこの労働者階級の週間新聞を編集した。

彼女はキューバ革命に関する三十数冊の本のシリーズを編集し、また、その他の十冊以上の本も編集した。ウォーターズは、キューバ革命とそれが世界中の働く人々と若者にもつ意味を、米国国内と世界中で広く話している。

¹ Mary-Alice Waters

² Socialist Workers Party

³ Pathfinder Press

⁴ *New International*

⁵ Jim Crow

⁶ Young Socialist Alliance

⁷ *the Militant*

序文

二〇一六年のドナルド・トランプ米国大統領当選は、米国の働く人々の間での人種差別、外国人排斥、女性差別、そのほかさまざまな形態の反動の増加を示すのか？それが理由で、すべての人種の数百万が、彼に投票したのか？

米国の働く人々は、社会主義革命を行うことができるのか？自分達の階級と、抑圧され搾取される同盟者達の利益のために共に戦う中で、自身達の持っている力に目覚めることができるのか？私たちは、資本主義階級の手から国家権力を奪取し、労働者農民の政府を樹立し、大多数の利益のために、社会の再編を導くことができるのか？

キューバだけでなく、米国および世界中で、多くの人々によってなされたこれらの質問に対する回答が、ここに出版されたメリーアリス・ウォーターズの講演の中で出されている。ウォーターズ（社会主義労働者党全国委員会のメンバーでパスマインダー・プレスの社長）は、労働者階級の国際祭日メーデーを祝う二〇一八年の行事の一つとして、ハバナ、キューバで催された会議で話した。それらの行事は、五月一日、キューバ労働者、農民、学生、その他百万の、ハバナの街頭や島中での社会主義革命を支持する行進で絶頂に達した。

この講演は、米国における階級闘争についての特別なプログラムの第一部でした。「クリントンからトランプ：ボス、彼らの諸政党、そして彼らの政府による反労働攻勢に、米国の働く人々はいかに対応しているか」というタイトルのパネルがそれに続いた。パネルの参加者は、主要産業と労働組合あるいは農業で長年の経験を持つ、社会主義労働者党の党员と支持者でした。彼らは、資本主義アメリカの働く人々が直面している多くの絡み合った様々な資本主義搾取や抑圧について述べた。

ウォーターズとパネルのメンバーは、企業のスピードアップ、職場安全の骨抜き、賃金や年金の引き下げについて話した。健康医療費の上昇の重荷。教育、交通機関その他社会的に必需なものへの資金の削減。

彼らは、アフガニスタン、イラク、シリアでの、ワシントンの十七年の戦争が、労働者農民の家族に与えた壊滅的な打撃について説明した。オピオイド乱用危機および、人生の盛りの青年層の自殺率上昇。環境の汚染。特に、アフリカ系アメリカ

人、ラテン系アメリカ人、そしてネイティブ・アメリカ人の労働者の間での、驚異的な収監率。

彼らは女性への妊娠中絶サービスの提供の削減について報告した。農家の倒産が増加。就職期の数百万人の青年男女が直面している学生ローンの負債危機。外国生まれの労働者の強制送還。投票権を含め、働く人々の憲法で保証された権利への攻撃。

しかしもっと重要なことは、この四十年にわたる雇用者と彼らの政府による攻撃に対して労働者がいかに戦ってきたかについて、彼らが説明したことです。二〇一八年春のウエストバージニア州教員ストライキと、その影響を受けてオクラホマ州、ケンタッキー州、アリゾナ州、その他の州に広がった学校職員のストライキとデモの波について、彼らは特に指摘した。

米国籍闘争のプログラムは、二〇一八年四月二十四日―二十六日に開催された第十二回国際メーデー科学会議の主要なイベントの一つでした。会議の主催者は、キューバ歴史研究所と、キューバの労働組合の連合組織であるキューバ労働者中央連合¹（CTC）でした。百三十人の参加者の多くは、キューバの諸都市からで、他に、メキシコ、アルゼンチン、チリ、コロンビア、米国、スペイン、イギリスからの参加があった。イベントは、ハバナ中心部の、歴史的な労働組合と文化のセンターである葉巻たばこ労働者宮殿で開催された。

CTC書記長のウリセス・ギラルテ²が開会の辞を述べ、キューバの働く人々とその労働組合が直面している課題について語った。これらの課題は、キューバが労働者階級の権力下にあるので、特殊な形態をとると、彼は説明した。さらに、キューバの商業食品労働組合と観光労働組合の指導者が追加の報告をした。三日間の会議は、キューバの労働者運動の歴史から、現代ラテンアメリカ諸国の労働者農民が直面する現状など、二十以上のプログラムを含んだ。

米国の階級闘争のプログラムは最終日に催された。二〇一六年ヒラリー・クリントンに投票したか、ドナルド・トランプに投票したか、あるいはどちらの候補にも投票しなかったかに関わらず、働く人々を動かしているのは反動的な態度と行動の増加ではないと、ウォーターズは説明した。

¹ Central de Trabajadores de Cuba

² Ulises Guilarte

真実は反対だと、彼女は言った。米国の労働者階級は、「社会主義革命が何を意味するのか、そしてなぜそれがもしかすると必要なのかを考えそして議論することに、私たちの政治活動経歴のいつよりも、よりオープンです。なぜ自分たちの階級は国家権力をとる責任を負えるのか、そしてなぜ私たちはその責任を負うべきなのかを考察すること。」

ブルジョアメディアで読み見たりする事から、このことはわからない。しかし私たちは自身の経験からそれが本当であることを知っている、ウォーターズは言った。「米国の一方の端から他方の端まで、あらゆる人種的、民族的構成の労働者階級の居住地域—都市、町、そして農村部—での戸別訪問で会う男女と、私達はこれらの問題を話し合い、」このことを身をもってじかに知っている。私たちは、職場仲間との話し合いから、ストのピケットから、そして投票権、警察の暴力行為、環境などの問題をめぐる抗議行動から、このことを知っている。

米国において、社会主義革命は可能か？可能だけではないと、ウォーターズは応答した。「さらに重要なことは、労働者による革命的闘争が必然であることです。」必然でないのは勝利ですと、ウォーターズは言った。そこが、政治的明快さ、そしてとりわけ「労働者階級指導者の能力と経験」が決定的に重要であるところです。

米国労働者の革命的な可能性を説明するのに、ウォーターズは、生きた記憶になっている階級闘争の諸経験に言及した。一九三〇年代の巨大な労働組合組織化運動について、そして一九五〇年代六〇年代のジム・クロウ制度—米国南部の暴力的な制度化された人種分離—を打倒した黒人に先導された大衆闘争について指摘した。ウォーターズは、ワシントンのベトナム戦争に反対する大規模な運動、何百万の軍人を含み労働者階級の内部に深く広がり米国の支配者を動揺させた運動、について語った。

ウォーターズの発言に続いたパネルは、以下で構成された。ニューヨーク州アルバニーから貨物鉄道の添乗員で労働組合員のジェイコブ・ペラソ¹；テキサス州ダラスのウォルマートで現在レジをし、地下炭鉱労働者として十四年間働いた、アリソ

¹ Jacob Perasso

ン・ケネディ¹；サウスジョージアで、生涯農業に従事するウィリー・ヘッド²；ニューヨークから、過去ミネソタ州の製肉工場労働者とユタ州の炭鉱労働者のストライキに参加したロヘル・カレロ³；そして、ワシントン DC から石油及び鉄道の組合闘争と黒人権利闘争のベテランのオマリ・ムサ⁴。

青年労働者でミュージシャンのハリー・ダゴスティノ⁵は、直前になってパネルに出席不能となったが、彼の書いた発言は、プログラム参加者に配布された。

パネルの後、質問と討論が始まり、さらに公式のプログラムの終了後も午後ずっと続いた。幾人かの参加者は、米国内の職場の状態や労働闘争についての具体的な情報を得られたことを特に感謝した。彼らは示された事実には驚嘆した。

メキシコからの参加者の一人は、今日彼女が学んだことは「現在米国で何が起きているかについての私の認識を一変させた。」と述べた。

* * *

ウォーターズの講演及び、パネル参加者の簡単な伝記と発言の概要が以下に掲載される。続いて炭鉱労働者と米国鉱山労働組合⁶（UMWA）の戦闘の歴史を説明する一九八一年ラジオ・ハバナの放送の筆記録が載せられている。パネルの何人かの発言は、ウエストバージニア州と米国東部の石炭鉱山全域の戦闘的記録とその生きた伝統に言及した。その当時ミリタント新聞に掲載された放送の筆記録の記事は、プログラム参加者全員に配布された。

* * *

教師のストライキの波は、学年度の終わりと共に弱まった。米国歴史の中で何回も起こったように、二〇一八年十一月州と連邦議会の選挙が近づくにつれて、ス

¹ Alyson Kennedy

² Willie Head

³ Róger Calero

⁴ Omari Musa

⁵ Harry D'Agostino

⁶ the United Mine Workers union

トライキの勢いは断たれ、行き詰まりの資本主義選挙政治がそれに取って代わった。しかし、働く人々の闘争は続く。

カリフォルニア州ロサンゼルス及びサンディエゴの港湾の全米トラック運転手組合¹に組織された運転手は、時間や賃金の保証なく失業手当もない「独立した請負業者」ではなく、従業員として認識される事を要求する争議行動をおこなった。米政府は、ホンジュラス、エル・サルバドル、ニカラグア、そしてハイチ、ネパール、スーダンの三十万以上の労働者の一時保護国指定²を打ち切った。その結果、トラック運転手組合の組合員の多くが強制送還の脅威に直面した。今回初めて、全米トラック運転手組合の指導部はこの強制送還の脅威に抗議する行動を職場争議行動の一部として支持した。

フロリダ州の働く人々は、百万人以上の元囚人の投票権の回復を要求して動員した。その要求は十一月の投票で、あらゆる肌の色とあらゆる出生国の投票者によって六十四パーセントの支持を得た。この事実は、働く人々の間で人種差別と右翼的な考えが抬頭しているというリベラルの見解に対するさらなる反証であった。元囚人の投票権をまだ制限しているケンタッキー州、アイオワ州や他の州の労働者は、このフロリダ州の勝利を踏まえて運動を組織している。

二〇一八年七月十二日、米国鉱山労働組合の炭鉱労働者やその他の労働組合員数千人が、オハイオ州コロンプスの州議会議事堂前で、雇用者による年金債務の棄却に抗議した。マクドナルドや他のファーストフードチェーンの労働者、多くは十代二十代前半、はデトロイトや他の主要な都市で、十月四日、一時間十五ドルの賃金を要求して一日ストを実施した。警官によるアフリカ系アメリカ人青年の殺害に対するかなり大きい抗議行動が、ピッツバーグからダラスそしてアラバマ州モーバーまで全国各地の都市や町で起こった。

そしてこの本の印刷準備の最中、サンフランシスコ、ホノルル、シカゴ、ボストンの五十ほどのマリOTT・ホテルの八千ちかくの労働組合員は、より高い賃金と、ホテルの雇用者によって上げられて高い医療保険費の据え置きを要求してストに突入した。彼らの断固とした姿勢とスローガン「一つの仕事で十分なはずだ！」は、

¹ the Teamsters union

² the Temporary Protected Status

生きるために二つまたは三つの仕事を余儀なくされている何百万もの働く人々に共感を生んだ。

この本は、闘争しそして勝利して自身の能力に自信を得てきているこれらの労働者が、前進する道を見つけるのを助ける。

マルティン・コペル

二〇一八年十二月



グランマ

数十万の労働者、農民、青年が二〇一八年五月一日ハバナで、社会主義革命支持を表明して行進した。

二〇一八年四月二十四日ー二十六日、キューバ歴史研究所とキューバ労働者中央連合によって主催された会議は、労働者階級の国際祭日メーデーを祝う行事の一つだった。百万以上のキューバ人がその日、島中で街頭に繰り出した。

米国の労働者階級を擁護する¹

メリーアリス・ウォーターズ

ルネ²、ご紹介いただきありがとうございます。

米国での階級闘争に関する今朝のプログラムに参加している私たち全員を代表して、キューバ歴史研究所、キューバ労働者中央連合、そして葉巻たばこ労働者宮殿のホストの皆さんに感謝したいと思います。

半年前、ルネが私たちに第十二回国際メーデー科学会議でこのプログラムを企画するよう依頼されたとき、私は懐疑的でした。。。「私たちはプロの歴史家でも学術研究者でもありません」と私は言いました。「私たちは、労働者、労働組合活動家、農民、共産主義者、社会主義労働者党と青年社会主義者³のメンバーと支持者です。私たちの参加は適切でしょうか？」

パネル参加者の簡単な伝記を紹介したパンフレットを配布しました。⁽¹⁾ 私はパンフレットに記述されていることを繰り返しません。ただ一つ強調したいのは、今日あなたが聞くことになるパネル参加者は、米国内のあらゆる場所（農地、あるいは炭鉱、石油精製所、鉄道、衣料製造工場、建設現場、製肉工場、自動車組立ライン、倉庫、および、ウォルマート⁴、米国最大の民間雇用者で米国で百五十万人を雇用、そして世界でさらに八十万人、のような小売大手）で生活し、働いてきたということです。

もちろん、階級意識のある労働者として、私たちは米国の階級闘争のただ中でのあらゆる社会的、政治的、文化的な戦いに参加しています。そして、それはもちろん、米国帝国主義による、公然な、あるいは隠蔽されたあらゆる武力行使、戦争に対する反対に始まります。

¹ ハバナキューバ、二〇一八年四月二十六日、キューバ歴史研究所とキューバ労働者中央連合（CTC）によって主催された会議での発言。ウォーターズは、歴史研究所所長ルネ・ゴンザレス・バリオスに紹介された。

² René González Barrios

³ Young Socialists

⁴ Walmart

ルネは私たちの躊躇に辛抱強く耳を傾けた。それから彼はただ微笑んで言った：「我々が聞く必要があるのはそれです。歴史研究所で私たちは労働者階級を勉強する多くの人たちと話をします。それと同時に労働者自身から話を聞く必要があります。」

そうこうして、このプログラムができました。あなたがたの質問、疑問やコメント、そして特に実りある議論を楽しみにしています。



マイケル・エスピノサ/フベンツド・レベルデ

上：米国階級闘争のパネルの参加者。このプログラムは二〇一八年四月ハバナ、キューバで催された国際メーデー会議の一部だった。左から、ウィリー・ヘッド、オマリ・ムサ、アリソン・ケネディ、ジェイコブ・ペラソ、メリーアリス・ウォーターズ。演壇にはロヘル・カレロ（写っていない）。

今日私たちから聞くことが、「マスメディア」や「ソーシャルメディア」であなた方が定期的に聞いたり見たり読んだりすることと異なることを事前に保証しておきます。「マスメディア」や「ソーシャルメディア」の両語のより正確な規定は、「ブルジョアメディア」です。

2つの質問に焦点を当てます

第一。ドナルド・トランプの二〇一六年の選挙での勝利は、人種差別、外国人排斥、女性嫌悪、他あらゆる形態の反動イデオロギーが米国の労働者内で増加していることを意味するのか？すべての人種の何千万もの労働者が彼に投票したのは、そのせいなのか？

第二。米国において、社会主義革命は本当に可能か？それとも、私たちのよ



ルルデス・オルテガ/キューバ歴史研究所

上：出席者の一部。百三十人の参加者の多くは、キューバの諸都市からだった。他にラテンアメリカ、米国、ヨーロッパからの参加があった。

下左：ルネ・ゴンザレス・バリオス、キューバ歴史研究所所長、が挨拶する。

下右：ウリセス・ギラルテ、キューバ労働者中央連合書記長、が開会の報告をした。うに躊躇しないで「はい」と答える者たちは、よい意図はともかく新しいユートピア社会主義者の愚か者であるのか。

巨人が動き始めた

最初の質問に対する最も明瞭で最も実証的な答えは、ウェストバージニア州からオクラホマ州、ケンタッキー州からアリゾナ州、その他の州の何万人もの教師およびその他の公務員によって現在出されています。トランプは、二〇一六年これらの州で大差で勝利しました。

ウェストバージニア州で二ヵ月前、二月と三月に、ここ二十五年来で最も重

要な労働闘争が爆発的な勢いで全国シーンに登場しました。約三万五千人の教師、用務員、バスの運転手、カフェテリアの労働者、およびその他の公立学校の職員が、公務員にストライキ権を否定した過去の裁判所の判決に抗して、ストライキに入りました。彼らは地域社会から圧倒的な支援を受けて、州内の五十五のすべての郡の学校を閉鎖しました。**はい、すべての郡です。**これには、戦う教師自身も驚きました。

この行動は、何年にもわたる支配階級による、生徒の給食、教科書、学用品、建物の維持管理、そして教師やその他の従業員の給与の予算削減、および子供の学習と成長に不可欠なスポーツ、芸術、音楽などのいわゆる課外活動のプログラムの削除、の後に生まれました。

ウェストバージニアは米国における石炭鉱業の歴史的な中心部です。配布のラジオ・ハバナの放送の筆記録⁽²⁾に記述されたような、米国の歴史中で最も激しい労働闘争の戦われた場所でした。ウェストバージニアは、歴史的に国内で最も経済的に荒廃した地域の一つであり、そして今日ではそれはなおさらです。

過去四十年間、石炭ボスと彼らの政府は、人件費を削減し、米国鉱山労働組合(UMWA)の基盤を破壊するべく、労働者の生命と生活水準に対しての一斉攻撃を行いました。

石炭会社は、石油、天然ガス、およびその他の化石燃料エネルギー源に資本を移し、アパラチア山地全域で何百もの鉱山を閉鎖しました。今日大半の石炭は米国の西部地域の広大な露天掘りで採掘されます。石炭会社はこれらの炭鉱の未組織に成功しています。彼らの唯一の関心事は、より少ない労働者を雇うことで利潤率を上げることです。

およそ五十年前、この国で最も強力な組合であったUMWAは炭鉱労働者の七十パーセントを組織していました。今日のその数字は二十一パーセントです。

組合が戦いで勝ちとつた鉱山地域一帯の健康診療所が、石炭ボスの組合契約の破棄によりいかに閉鎖されたかという話をする時間はありません。あるいは、一九七十年代から一九八十年代にかけて減少した、炭鉱労働者にとって致命的な黒肺疾患が、なぜいま再びこの地域をまたがって急速に増大しているのか、という話をする時間もあります。今日の新鉱山技術が生むより小さくより危険な石炭やシリカ粉塵からの保護の欠如は、一層強烈な形で若い労働者を襲っています。

また、石炭会社がどのように破産手続、裁判所の判決、および企業の「リストラ」を使用して組合契約を破棄し、年金債務を棄却し、そして以前の戦いで獲得された UMWA 統制の炭鉱安全委員会を廃止したかについても説明できません。これらの組合安全委員会を通じて、炭鉱労働者たちは、**どのような危険な状況に直面したときでも、いかなるシフトでも作業を停止する権限をもちました。**

これらの点に関してはプログラムの後半で、パネルのメンバーで地下炭鉱労働者として十四年間働いた、アリソン・ケネディから更にお聞きになれます。

この数十年にわたる攻撃の結果は統計に記録されています。

現在ウェストバージニア州の平均世帯収入は、米国全五十州の中でミシシッピ州を除けば最も低い。教師の収入についていえば、ウェストバージニア州より低いのは、オクラホマ州、サウスダコタ州、ミシシッピ州の三州のみです。

ウェストバージニア州の失業率は、いわゆる就業意欲喪失者－長期間仕事を見つめることができなかった為に、一時的に求職をあきらめた労働者－を含む米国政府の公式統計で、国内で三番目に高い失業率です。二〇一七年には十パーセントを上回った。

ウェストバージニア州は米国における薬物乱用危機の中心です。オピオイド過剰摂取による死亡率は全国で最も高い。そしてこの危機はまだ加速しており、米国での平均寿命が、二〇一五年から二〇一七年にかけて二年連続で**低下した**という事実上に最も強力に示されています。

さらに、ワシントンの果てしない戦争の犠牲を加えなければなりません、その負担はいつものように、国の最も落ち込んでいる地域の労働者階級と農家の家族に最も重くのしかかります。アフガニスタン、イラク、シリアなどの戦争での退役軍人の間では、自殺率は一日二十人です。はい、その通りです。**一日二十人。**

この状況にさらに説明を加えることもできますが、それは必須ではありません。

重要なのは、ウェストバージニア州のような地域における労働者階級家庭の生活の荒廃を理解することなく（その様な例は、他にもニューメキシコから、オハイオ、ケンタッキー、ニューハンプシャーへと、もっとたくさんあります）、そして二〇〇八年の金融危機以降急速に増加する**階級**の不平等（それには、労働者階級と中流

層の内部で加速する不平等を含む)を理解することなくして、あなたは米国で何が起きているのか理解することができないでしょう。

この修羅(しゆら)場のパノラマを、シリコンバレーのような場所や、マンハッタン、ワシントン、サンフランシスコのような、都市の密集地の高級地区(最も高級ではないが)に住む中流階級上層の生活と比較する必要があります。

労働者が直面しているこの荒廃は、一九七十年代半ばに始まり、いまだに深刻化している世界的な資本主義生産と貿易の危機の結果であるだけではありません。それは一九九十年代にクリントン夫妻の民主党政府によって開始され、ジョージ・W・ブッシュの共和党政府とバラク・オバマの民主党政府によって同様に追求された政策の結果です。

- 母子家庭の子供たちへの連邦政府の援助の廃止やあらゆるレベルの他の社会福祉プログラムの大幅な削減の政策。
- 「麻薬戦争」や「刑事司法」のような名前で偽装された法律と政策の結果は、米国を世界で最も高い収監率の国にしました。米国の人口は世界人口の四パーセント強ですが、地球上の全囚人人口の約二十五パーセントを占めます。キューバファイブ¹の同志が、約十六年間生活し政治活動を遂行したのは、これらの囚人の間であったと付け加えます。(3)

これらすべての問題はパスファインダー・プレスによって出版され、広く読まれている本の中で説明され文書化されています。それらの本は多くの方がすでに訪れたテーブルにあります。『クリントン夫妻の反労働者階級記録²』、『金持ちなのは、頭がいいからですか?³』、この両書は、社会主義労働者党全国書記長のジャック・バーンズ⁴によります。『米国の野蛮な司法制度に直面するのは貧しい者たちだ⁵』、この本の中で世界中でキューバファイブとして知られている同志たちは獄中で米
国労働者階級の一員として活動した経験を語ります。

¹ the Cuban Five

² *The Clintons' Anti-Working-Class Record*

³ *Are They Rich Because They're Smart?*

⁴ Jack Barnes

⁵ *It's the Poor Who Face the Savagery of the US 'Justice' System*

ウェストバージニア労働者は反撃する

このような社会的現実を説明すると、ここキューバ（やその他の場所）で、しばしば、きかれます。「彼らはなぜこれを受け入れるのか？ どうして抵抗はなかったのですか？」と。

私たちの答えは常に同じです。「抵抗**はあります**。労働者は常に反撃の機会を模索しています。そして好機をみれば**行動します**。」しかし労働者階級の一員でなければそれが爆発するまで何が起きているのかわからないでしょう。

他の救済策を使い果たすまで、労働者はストライキに出ません。他に全く選択肢がないと認識するまで。

ウェストバージニア州の教師のストライキはまさにそのような火山噴火でした。それは、なにもない所から突然出てきたように見えたが、実はそれは何年もの間準備されてきたのです。その根は深いのです。

そして、教師や他の学校の従業員がストライキに出て行き、自分たちの数の強さを見たとき、彼らの自信と決意も急増しました。生徒、家族、労働組合、そして教会からの支援を得て—そして炭鉱労働者が戦った多くの激しいストライキの鮮明に残る記憶を教訓として—彼らは生徒とストライキ労働者のための緊急食料サービスを組織しました。子供たちのための日中の活動が組織されました。衣服や資金が収集されました。そしてそれ以外にもさまざまな活動が組織されました。

労働組合主義の最善の伝統を継ぎ—そして再び築かれる戦闘的労働運動の先駆けとなって—ストライキは真正の社会運動の要素をもつて、労働者階級全体とその同盟者の要求を争いました。

「われわれが目にしてるのは、闘いに立ち上がっている一群の人々だ。」と一人の労働者が誇らしげにレポーターに話しました。

そして彼は正しかった。彼らは、大統領選挙中にヒラリー・クリントンが軽蔑的に「嘆かわしい者の群」とラベル付けた男女でした。彼らは、ニューヨークとカリフォルニアの間の「後進」（それは彼女の言葉です！）の広範囲の地域からの人々でした。彼らは、ヒラリー・クリントンが「人種差別主義者、性差別主義者、同性愛嫌悪者、外国人恐怖者」と描写した人々でした。そして特に女性「既婚白人女

性」は「夫、上司、息子の投票の指図の圧力」に耐えるには弱すぎると、彼女は言いました。

「ウェストバージニア州で、ここ二十五年来で最も重要な労働闘争が爆発的な勢いで全国シーンに登場した。」



クリス・ドースト/アソシエイテド・プレス



EMMA JOHNSON/MILITANT



エマ・ジョンソン/ミリタント

リリー・アルタベナ/アズセント

ラル

教師、バスの運転手、カフェテリアの労働者、用務員は、五十五全ての郡で学校を閉鎖し、州の全ての公務員の昇給を獲得した。ストライキは働く人々の要求を闘う社会運動の要素をもった。

上：ウェストバージニア州チャールストンで二〇一八年二月、州議会議事堂でストライキ労働者の集会。

左：ウェストバージニア州ハリケーンの教会で、ボランティアは学校の給食にたよる生徒のためにランチを準備する。同様なことが州全域で組織された

右：アリゾナ州フェニックスで二〇一八年三月、ストライキする教師の集会。いたるところの活動でみられる手製のサインは、ウェストバージニアのストライキの影響を示す。



ミリタント



チップ・ボック/creators.com

教師のストライキは、「中流階級リベラルとラジカル左翼が描く労働者階級の『後進性』の肖像の生きた反論です。彼らが弾劾することを望むのはドナルド・トランプだけではありません。彼らの標的は一そして彼らが恐れ始めた対象は一闘いに立ち上がっている、その多くがトランプに投票した、一群の人々です。」とウォーターズは言った。

上：ウェストバージニア州ハリケーンで二〇一八年三月、学校バス運転手と支持者は、九日間のストライキ中停車場をピケットする。右のサインは、州公務員健康保険局が発表した医療保険の削減に抗議する。

トランプがウェストバージニア州でクリントンを六十九パーセント対二十七パーセントの投票で勝利したのに何の不思議がありませんか？

この闘争に参加したより良いクラスの人々は、すべての学校を九日間閉鎖しただけではありません。彼らは連日何千人ものデモ隊を派遣して州議会議事堂を占拠しました。ストの最中、知事の約束を受け入れることを求める組合役員の呼びかけを教師たちは拒否しました。約束は何度も聞きました。彼らは、学校職員だけでなく州のすべての公務員の五パーセントの昇給を議会が通過し州知事が署名して法成化するまで、ストを続けました。

自信にみちた赤シャツの勝利者たちは、州議会議事堂の建物から叫んできました。「誰が歴史を作ったのだ？我々が歴史を作ったのだ！」

そしてその勝利のニュースが広く伝わるにつれ、オクラホマ州、ケンタッキー州、アリゾナ州の教師たちは次のストライキの準備にはいりました。「ウェストバージニアにならえ！¹」が彼らの戦いの叫びとなりました。

もっと多くの話をパネルから聞くでしょう。

ウェストバージニア州で起こったことは、広範な中流階級リベラルと米国および世界中の多数のラジカル左翼がほとんど例外なく描く労働者階級の偏見と「後進性」の肖像の生きた反論です。彼らが執拗に弾劾することを望むのはドナルド・トランプだけではありません。彼らの標的は一そして彼らが恐れ始めた対象は一闘いに立ち上がっている、その多くがトランプに投票した、一群の人々です。

このような何万人もの働く人々の行動の背後にあるのは、メキシコ人や、イスラム教徒や、黒人に対する憎しみではなく、また妊娠したはだしの女性を家においておきたいという願望ではありません。展示されている、ウェストバージニア州、ケンタッキー州、アリゾナ州などの教師の戦いの最前線にいる女性たちの写真を見てください！

これらの戦いに参加している労働者は、国境の壁を呼び要求したり、女性に対して痴漢行為をしたり、またはKKK（クー・クラックス・クラン²）フードで行進して、十字架を燃やしたりしません。彼らは自身と彼らの家族、そして彼らのようなすべての働く人々に対して尊厳と尊敬を要求しています。

そして彼らは、彼らが「政治クラス」と呼ぶ、ワシントンや国内のあらゆる州都の共和党と民主党の両党、に対して不信と憎しみを増しています。だからこそ、「ヘドロをかき出せ³」というスローガンは、トランプに投票した人々をはるかに超えて共鳴しました。これらの多くの働く人々を動かしているのは反動的な態度ではありません。しかしそれは階級独立の政治意識でもありません。その様な政治意識は、**ピケットラインおよび路上での大規模な労働者階級の行動**を通してのみ発展することができます。

これから、その闘争がどのようなペースで発展するのか、あるいはその闘争はどのような形態をとるのか、私たちは知りません。しかし、その闘争はウェストバ

¹ Don't make us go West Virginia on you!

² Ku Klux Klan

³ Drain the swamp!

ージニアで広がった様な階級連帯が基調となった闘争となることは、明らかです。

このプログラムから1つでも覚えている事があれば、それが以下のことであるのを願っています。

米国の働く人々は、社会主義革命が何を意味するのか、そしてなぜそれがもしかすると必要なのかを考えそして議論することに、私たちの政治活動経歴のいつよりも、よりオープンです。なぜ自分たちの階級は国家権力をとる責任を負えるのか、そしてなぜ私たちはその責任を負うべきなのかを考察すること。その過程で、私たち自身が異なる人間になることをはっきり理解すること。

この政治的な開放性は、この政治的関心は、トランプに投票した人々の間でも、クリントンに投票した人々の間でも、またはどちらの大統領候補にも投票する気になれなかった記録的な数の人々の間でも、同様です。

世論調査やブルジョアメディアの報道からは、このことはわかりません。私たちはそれを自身の経験から、そして米国中に点在する親戚の経験から知っています。米国の一方の端から他方の端まで、あらゆる人種的、民族的構成の労働者階級の居住地域—都市、町、そして農村部—での戸別訪問で会う男女と私たちはこれらの問題を話し合い、このことを身をもってじかに知っています。戸口に來た、誰とでもこれらの問題を話し合う。

米国の社会主義革命？

次の問題に移ります。米国において、社会主義革命は本当に可能か？

二ヶ月前、ハバナの外務省高等外交研究所(ISRI)の学生からこの質問を受けました。彼はそれが可能とは信じないと言いました。ワシントンは経済的・軍事的に強すぎる—そして労働者階級はあまりにも後進的だ。彼の主張によれば、米国の帝国主義は「外部から」打倒されなければならない。

私たち社会主義労働者党は、社会主義者と自称する者の中でも少数派で、「はい、米国での社会主義革命は可能だ」と躊躇せずに言います。

どの国でも、解放に向けての運動は決して「外部から」強制できません。何百万もの人々の活動をもってのみ、勝利は可能です。

私たちは、米国における社会主義革命が可能であると言うだけではありません

ん。さらに重要なことは、労働者による革命的闘争が**必然である**ことです。ウェストバージニアで今見たように、有産階級の危機主導下の攻撃は、私たちが革命闘争にむかわせます。そして、この闘争は、必ず世界中の抑圧され搾取される生産者の抵抗と闘争に結びつくでしょう。

必然でないのはその闘争の結果です。そこが、政治的な明快さ、組織、以前の経験、規律、そしてとりわけ労働者階級指導者の能力と経験が決定的に重要であるところです。

私たちの確信は、私たち自身が参加してきた階級闘争の戦いから、そして私たちが共産主義運動に獲得した戦闘経験豊かな労働者から直接学んだことから来ています。例を三つ挙げます。

三十年代、労働者階級の巨大な獲得

私の世代を運動に獲得したのは、一九一九年に米国で最初の共産党の創設に参加した人々でした。彼らはコミンテルンの創設第一回大会への代表者でした。彼ら是一九三〇年代の巨大な労働闘争の指導者でした。この労働闘争は、アメリカ労働総同盟¹の職業分割された労働組合を小数年で乗り越えて、ほぼすべての基幹産業を産業組合に組織した強力な社会運動でした。

一九四〇年代後半の最高点では、民間の労働者階級の約三五パーセントが組合化されました。それは、一九三〇年の七パーセントからの増加でした。（一九三〇年の数字は、民間部門の労働者の六・五パーセントが組合員である今日のそれに近い）。その変革の速さと力から私たちが学んだ教訓は、会社の雇われ暴力団員や警察だけでなくストライキを破るために派遣されたファシストギャングや州兵との激戦の教訓も含めて、すべて私たちの基本的な教育の一部です。

産業別労働組合会議（CIO）の抬頭は、後ろのパスファインダーの本のディスプレーのうちの、アート・プライスによる『労働の巨大な一歩』で詳しく説明されています。彼は長年『ミリタント新聞』の労働関係記事の主要な記者でした。

今日ここで私が特に注意を促したいのは、一九三〇年代の労働闘争の中で最も広範囲に及び、かつ政治的に意義深い、全米トラック運転手組合による運転手、倉

¹ American Federation of Labor

庫労働者の組合組織化です。それは一九三四年米国中央北部のミネアポリスで始まり、そして一九三八年から一九三九年の最高点では、インド亜大陸とほぼ同様の大きさの地域に広がっていった組織化運動でした。はい、インド亜大陸！

この組織化運動の豊かな歴史と教訓は4冊の卓越した本に記録されています—『チームスター・反乱¹』、『チームスター・パワー²』、『チームスター・ポリティクス³』、そして『チームスター・ビューロクラシー⁴』。喜ばしいことに、今日4冊すべてが初めてスペイン語で読める様になりました。

チームスター・シリーズの著者であるファレル・ドブス⁵は、一九三四年のミネアポリスを労働組合の町に変えたストライキのリーダーとなったとき、二十代で市の倉庫で石炭をすくっていました。彼は、テネシー州からノースダコタ州、テキサス州からミシガン州まで、二十五万人もの長距離トラック運転手を組合に加入させたキャンペーンの中心的な組織者でした。彼は一九四〇年に社会主義労働者党の労働書記長に就任するために、全米トラック運転手組合の組合組織化運動の全国責任者を辞任しました。米国政府のめざす帝国主義戦争に対して労働者階級の反対を組織したゆえに、彼は一般運転関係労働者組合第544支部-CIO⁶と社会主義労働者党の十七人の指導者と共に第二次世界大戦中、刑務所に送られました。彼は後に二十年間、社会主義労働者党の全国書記長を務めました。

他のどのような労働者の戦いよりも、米国の労働者階級が闘争で目覚めた時に何が可能かを私たちに教えてくれたのは、トラック運転手の組織化闘争でした。それは、労働者階級が階級の政治的独立やプロレタリア国際主義の意味をどれほど早く学ぶことができ、そして組合運動を階級全体とその同盟者のための革命闘争の道具にどれほど早く変え始めるかを、私たちに教えました。

私たちが学んだのは、この戦いの経験が、**すべて一般**の運転関係労働者の組合組織化の戦い、石炭や食物の配達運転手、タクシーの運転手、倉庫労働者、そして長距離トラック運転手をすべて含めた産業労働組合の戦いだと言うことでした。この経験は、

¹ *Teamster Rebellion*

² *Teamster Power*

³ *Teamster Politics*

⁴ *Teamster Bureaucracy*

⁵ Farrell Dobbs

⁶ General Drivers Local 544-CIO

失業者、農民、女性、そして個人でトラック所有の運転手を同盟者として組織することを含みました。また、雇用者によって助長されたファシスト組織化を阻止した、規律のとれた組合の防衛部隊の構築と訓練を含みました。

この経験は、組合の戦闘的労働者がドイツ、中国、そしてスペインでの出来事を追い、反ユダヤのチンピラ達との戦いをつうじて、その国際的な視野を広げるこ

「ミネアポリスの経験からくる戦闘的労働者のための主要な教訓は、力の不利な関係の下で、労働者は克服されるということではない。適切な指導の下で、彼らは克服することができるということです。」—ファレル・ドブス



ミネソタ歴史協会

一九三四年ミネソタ州ミネアポリスでの、トラック運転手のストライキの勝利は、カリフォルニア州の港湾労働者とオハイオ州の自動車部品労働者の激戦のすえの勝利と共に、一九三〇年代の終わりの前に、自動車、鉄鋼や、事実上すべての基幹産業の組織化を導く模範となった。

上：ストライキ中のトラック運転手は、警官や「特別代理人」の流血の強襲から自分たちを防衛する。一九三四年五月、ミネアポリスの商店街で数百の労働者は警官およびボスのチンピラ達を敗走させた。

とを含みました。彼らの中で、労働者が独立した階級の勢力として自分たちの政党をもって政治の場に入る必要があるという意識が高まってきました。

その急速な前進は、ワシントンの帝国主義戦争に向けての動きの強化につれ、組合運動への圧力が強まるにつれて、一九三九年―四〇年に終わりを迎えました。しかし、ドブスが『チームスター・ビューロクラシー』の「後書き」に書いているように、「ミネアポリスの経験からくる戦闘的労働者のための主要な教訓は、力の不利な関係の下で、労働者は克服されるということではない。適切な指導の下で、彼らは克服することができるということです。」

それはフィデルの下でキューバ革命を勝利に導いた男女の人々から、私たちが同様に学んだ主要な教訓です。

ジムクロウ制度を倒すための戦い

このパネルの私たちの誰も三〇年代の巨大な労働闘争を直接生きて経験していません。しかし、私たちの何人かは、もう一つの深く革命的な労働者階級の闘争の経験をとうして、変革した世代に**属します**。一九五〇年代と六〇年代のこの大衆運動は、米国南部における制度化された人種分離の体系（ジム・クロウ制度）を打倒しました。その成功した戦いは、労働者階級内や組合内の関係を含めて、南北両方の社会的関係を永遠に変えました。

そしてこれが私の米国で社会主義革命は可能という確信を説明する二番目の例です。

ジム・クロウ制度を打倒した闘争のルーツは、一八六三年南北戦争のさなかに南部の奴隷制が廃止されたのちの、アフリカ系アメリカ人に対する全南部での反革命的な暴力とテロへの何十年にもわたる抵抗に見いだされます。これは、第二次アメリカ革命の一部を構成しました。南部で政権をとった人民革命政府―いくつかの州では黒人主導―はやがて抬頭する金融資本に裏切られました。一八七七年までに、根本的な再建¹として知られている戦いは血まみれで敗北しました。

しかし、七五年後、一九五〇年代に起こった強力な闘争の波の客観的条件はまったく異なっていました。一般に、公民権運動として知られているこの革命的闘争

¹ Radical Reconstruction

は、とりわけ以下のものの産物でした。

- 一九三〇年代の大衆的な労働者の闘争は、自動車、鉄鋼、トラック輸送、そしてその他の多くの産業で従業員の人種の統合に向けて闘いました。

- 第二次世界大戦がもたらした社会的激動は、南部農村地域からの人口流出と、男女両方数百万人のアフリカ系アメリカ人労働者の南北の製造産業やその他都市部での雇用への急速な統合を含んでいました。それは第一次帝国主義世界大戦の間に始まった黒人の大移動¹として知られていることの一部です。第二次世界大戦中、何十万もの黒人兵士が人種分離され危険な米軍のいわゆる非戦闘部隊に加わったことも含みます。

- 日本への原爆投下とワシントンによる朝鮮半島の侵略、分断、占領の間の「平和」の期間に、米軍内の人種統合は、始まりました。一九五一年、朝鮮人民と支援の中国軍の断固たる抵抗に直面し、また分離された部隊に属する黒人兵士の不満の増加に直面し、軍の戦闘部隊の人種分離も終わりました。

- 第二次世界大戦中とその後、中国、朝鮮、ベトナム、インドネシアからインド、アフリカ、そしてカリブ海まで、植民地における民族解放運動の勝利の波は広がりました。この勝利はキューバ革命を含みます。キューバ革命はそれら民族解放運動の戦いの中で、最高の進展を示しました。

- 第二の世界的な殺戮を、「民主主義」「自由」「平等」のために追求したと主張する米国支配者の露骨な偽善と道徳的な破産。

私の世代、そして今朝ここにいる私たちの何人かにとって、アメリカ版のアパルトヘイトを打倒した大衆闘争の年々は、人民の革命的な行動の学校、**私たちの**学校でした。

その時、私たちは規律を学びました。その時、私たちが個人としてではなく、私たちの数、そして何よりも私たちの組織が持っている力を学びました。運動内で、激烈なしかし市民的な議論をすることを学びました。黒人の権利獲得のための運動の内部で激しく相対立する諸階級の必然的な衝突を経験するなかで、私たちは政治的であること（ナイーブではない）を学びました。

ジム・クロウ制度を倒すための戦いの神話の一つは、それが平和主義運動だ

¹ the Great Migration



ジャック・デラノ/米国農業安定局

第二次世界大戦後の社会的動乱は、ジム・クロウの人種分離を打倒した大衆的労働者運動の一つのルーツだった。数十万人のアフリカ系アメリカ人の労働者や農民が人種分離され危険な米軍の「非戦闘部隊」に加わった。数百万人が北と南の産業や他の都市部での雇用を得た。

上：一九四二年ニューヨーク。米軍の人種分離の終了と軍事産業における差別の終了を要求し、またバージニア州の小作人のオデル・ウォラーの冤罪と死刑執行を抗議する集会。

下：一九四三年三月ニューメキシコ州クロビス。鉄道労働者のアルメタ・ウィリアムズ、ベアトリス・デイビス、リザ・ゴス、アビー・コールドウェルは、その以前には閉ざされていた工業の仕事に雇用された女性たちだった。

ったということです。南部および一部の境界州で、民主党および警察と深く絡み合っていたクー・クラックス・クラン、白人市民会議、およびその他の自警団の暴力に

対して、自衛のために武装することに運動参加者は原則として反対したという神話。

事実は異なります。第二次世界大戦や朝鮮戦争で軍事訓練や戦闘経験を持つ労働者は、防衛と正義のための執事¹、ジャスティス・イン・ルイジアナ²、及びノースカロライナ州モンローの全米有色人種地位向上協議会³支部で、自分たちのコミュニティと行進する子供たちの防衛を組織しました。マーチン・ルーサー・キング⁴は、きちんと組織された警備で守られました。

何にもまして、私たちはマルコム・X⁵と共鳴し彼から学びました。彼はますます意識的に革命的な路線、国際主義の路線、そして労働者階級の路線を追求しました。肌の色がどうであれ、「自由、正義、平等を望む者と搾取システムの継続を望む者の間」での世界的な戦いを戦っている世界中の人々と共に戦う方向をマルコムは模索しました。

私たちの多くにとって、**私たちの**世代に、働く人々の革命的能力に揺るぎない確信をもたらしたのは、米国の大規模な黒人のプロレタリア運動とキューバの労働者農民とその革命の進展でした。

如何に、この二つの革命的闘争が私たちにとって一つになったかは、展示されているパスファインダーの本の中で、最も重要な本の1つ、ジャック・バーンズ著の、『キューバと来るべきアメリカ革命⁶』で語られています。

「労働者の進路の最大の障害は」とジャックはこれらのページで述べています、「働く人々が自分自身を過小評価し、私たちが達成できることを過小評価し、自身の価値を疑う傾向です。搾取階級はこの傾向を助長し永続しようとする。」

キューバの労働者と農民が私たちに示したのは、階級の連帯、政治的意識、勇気、集中的で持続的な教育の努力、そしてキューバの様な卓越した革命的指導部—長年にわたる闘いと犠牲の中で試練され形成された指導部—それがあれば、最初は克服できないように思われた莫大な力と数に立ち向かうことが可能です—そして勝てま

¹ Deacons for Defense

² Justice in Louisiana

³ NAACP—National Association for the Advancement of Colored People

⁴ Martin Luther King

⁵ Malcolm X

⁶ *Cuba and the Coming American Revolution*

す。そして、そうすることができる唯一の階級に導かれて、真に**新しい社会**の構築を促進することが可能です。

それが私たちの世代の政治教育の基盤でした。

「私たちの世代に、働く人々の革命的な能力に揺るぎない確信をもたらしたのは、ジム・クロウ人種分離と戦った米国の大規模な黒人プロレタリア運動とキューバの労働者農民が示した模範でした。」



ラジオリベルデ

上：アラバマ州モンゴメリー、一九五五年十二月。バスの後ろに座ることを黒人に強いる法律に抗議するための都市交通システムのボイコットを支持する最初の大衆集会。米国の黒人権利運動は数百万人の規模に拡大し、南部全域でアパルトヘイトの様な人種分離の制度を打倒した。

下：ハバナ、一九六二年二月。百万人が、フィデル・カストロの読む第二ハバナ宣言の支持を表明する。先年のピッグス湾（プラヤ・ヒロン）での革命的な勝利—ワシントンのアメリカでの最初の軍事的敗北—をもって、キューバ人民は「革命は可能だ、」という模範を世界に示したと、カストロは言った。

ベトナムと帝国主義戦争

ジム・クロウ制度に対する労働者大衆の闘争が勝利した後、米国の労働者階級の革命的能力に対する私たちの自信は、私が指摘する三番目の例でさらに深まりました。それはベトナム人民に対する米国支配者の戦争を終わらせるための戦いでした。私たちは、ベトナム人民が勝利すること—そしてベトナム人民の国家主権と統一のための戦いを支持する私たちの勝利—を疑いませんでした。

その戦いの過程で、戦争に反対する動員が何百万人もの人々を巻き込むようになるにつれて米国社会の構造の中に広がる亀裂は、米国の支配者たちに恐れを与えました。

北の主要な都市の黒人ゲッターで大規模な反乱が爆発しました。この反乱は、マーティン・ルーサー・キングが暗殺された後の一九六八年には事実上すべての米国の都市に広がりました。この暗殺は、キングが支援したテネシー州メンフィスの衛生労働者のストライキの最中の冷血な政治的暗殺でした。

米国の支配者は、反戦やゲッターでの抗議行動を威圧し鎮圧するためにさらに頻繁に州兵を動員しました。一九七〇年五月、ワシントンのベトナム国境沿いのカンボジア侵攻に反対する、これまでにない規模のデモが米国を揺り動かしました。ミシシッピ州ジャクソン州立大学の二人の学生とオハイオ州セント州立大学の四人の学生は、大学を占拠した州兵によって射殺されました。抗議行動はさらに広がり最高潮に達しました。

米国の支配者たちと彼らの召し使いは、ベトナム反戦の大規模な拡大に真に動揺しました。学生や数百万人に増加する労働者の間だけでなく、徴兵からなる米軍内の兵士、特にベトナムに派遣された兵士の間で、反対はますます拡大しました。形勢は一変しました。

これが、ウォーターゲートとリチャード・ニクソン大統領の辞任として知られているブルジョア政治的危機の本質です—米国の支配者の恐怖の震え。

このような人生経験から、私たちはアメリカ社会主義革命が勝利した際に必然的に現象するであろう政治力学を学びました。

最後にもう1点。

私たちが今日生きている世界は、資本主義の平和と繁栄の未来に向かっていてるわけではありません。その様な未来に向かっていてるのなら、あなたは帝国主義世界の支配階級の家族と彼らの金融魔法使いが危機下の資本主義を「管理する」方法を見つけたと信じなければならぬでしょう。金融の破綻と、生産、貿易、そして雇用の崩壊を避ける方法を発見したと信じなければならぬでしょう。

「米国の支配者たちは、徴兵からなる米軍内の兵士を含めてベトナム戦争に対する大規模な反対に真に動揺した。」



N.J. ブラウン

サンフランシスコ、一九六八年十月。五百人の現役の兵士が、その一部は制服で行進することで軍法会議にかけられる危険を冒して、ベトナム戦争に反対する一万五千人のデモを導く。

「ジム・クロウ制度に対する闘争が勝利した後、」とウォーターズは言った、「米国の労働者階級の革命的能力に対する私たちの自信は、ベトナム人民に対する米国支配者の戦争を終わらせるための戦いの中で深まりました。私たちは、ベトナム人民が勝利すること—そして彼らの戦いを支持する私たちの勝利—を疑いませんでした。」

二〇〇七年—〇八年に爆発した信用危機は例外であり、働く人々にとってさらにもっと壊滅的な結果を伴う危機は再び起こらないと信じなければなりませんでしょう。

真実は反対です。

金融資本の危機は短期的な循環的調整ではありません。世界資本主義の利潤率は、一九七〇年代半ば以来、四十年以上にわたって長い下降曲線を描いてきました。頻繁に機能停止する金融資本と銀行資本の支配の下で、世界資本主義は製造業の規模の拡大と労働者の大規模な雇用への持続的な投資の拡大期に入っていると誰が信じますか？

すべての証拠は逆の方向を指しています。

私たちは何十年にもわたる経済的、財政的、そして社会的な激動と資本主義国家間の対立の激化の時代に入りました。何十年にもわたる、先鋭化する階級衝突と、イラク、アフガニスタン、シリアなどの様な壊滅的な流血戦争の時代。

近い将来は第三次世界大戦に**終わる**—必然的に—もしそうすることができる唯一の階級である**労働者階級**が国家権力を握ることができない場合には。もし我々が帝国主義支配者から、とりわけ米国の帝国主義支配者から戦争をする力を奪うことに失敗した場合には。

しかし、私たちにとって、将来についてのこの冷静で現実的な評価はパニックの原因でも士気喪失や絶望の理由でもありません。全く反対です。近い将来、減少していく利潤率を逆転させるために働く人々の搾取を激化する資本主義者の攻撃のなかで、労働者の前衛による組織的な抵抗も増します。

これらの戦いを通して、階級意識、そして自信と指導能力が、働く人々の間で形成されます。不均等に、しかし速やかに。

そして時間は**私たちの側**にあります—彼らの側ではありません。

一九六一年三月十三日、プラヤ・ヒロン¹の勝利の戦い（あるいは米国ではピッグス湾²の大敗走）の約一か月前に、フィデル・カストロは、来るべき侵略に対して準備する何万人ものキューバ人労働者、農民、そして青年に演説しました。フィデルは、侵略をもって米国支配者に隷属する政府をキューバに設置するというワシントンの幻想に答えて、「キューバで反革命が勝利する前に米国で革命が勝利するだろう」と声援する群集に語った。

彼の言葉は空っぽの虚勢ではなかった。フィデルは**決して**虚偽的民衆扇動をしませんでした。また、彼は水晶玉を見つめて、未来を占ったのでもありません。私たちとキューバの革命的な人々は彼をよく理解していました。彼は指導者として私たちの生涯における闘争の道

筋、行進の道筋を提案し—**提示**—したのです。いつものように、彼はレーニンの「なにをなすべきか？」の問題提起に答えていました。

北米、そしてキューバでも、それぞれの後を継ぐ世代の革命家たちはそれらの言葉を旗じるしに載せています。

米国の労働者や農民の政治的能力と革命的な可能性は、プラヤ・ヒロンでのキューバの労働者農民のそれと同様に、今日、支配階級の家族とその召し使いによって完全に無視されています。

そしてプラヤ・ヒロンと同様に誤って。

注

(1) 35 頁から 45 頁を見よ

(2) 46 頁から 52 頁を見よ

(3) 一九九八年九月、クリントン政府は、「キューバのスパイネットワーク」がフロリダ州で摘発され、FBI はそのメンバー十人を逮捕したと発表した。二〇〇一年六月、裁判にかけられた五人の被告—フェルナンド・ゴンサレス、レネ・ゴンザレス、アントニオ・ゲレロ、ヘラルド・エルナンデス、ラモン・ラバニーニョ³—は各々

¹ Playa Girón

² Bay of Pigs

³ Fernando González, René González, Antonio Guerrero, Gerardo Hernández, Ramón Labañino

「有産階級の攻撃は、働く人々を革命闘争にむかわせます。この闘争は、必ず世界中の搾取される生産者の抵抗に結びつくでしょう。」



レジス・ドビノー/ロイター

上：フランス南西部、二〇一八年十二月。「緊急。購買力。すべての者に尊厳、」と抗議行動のサインは言う。何週間も、フランスの町や農村地域からの働く人々は、燃料税の引き上げ、年金の削減、そして非常に低い最低賃金の中止を要求する行動に黄色のベスト（すべての車に法律で義務付け）を着て参加する。抗議は世界中で支持を得た。

下：サイゴン、今日ホーチミン市、一九七五年四月三十日。勝利した民族解放戦士は、最後に残った米軍がヘリコプターで脱出する間に、大統領宮殿の敷地に入る。



「登録なしで外国権力の利益を代表する代理人となる陰謀」で有罪判決を受けた。ゲレロ、エルナンデス、ラバニーニョはまた「スパイ行為を犯す陰謀」で、そしてエルナンデスは「殺人行為を犯す陰謀」で有罪判決を受けた。判決は刑期十五年から、エルナンデスの二重の無期懲役および十五年。

五人の革命家—今日「キューバ共和国の英雄」—は、米国でキューバに対するテロ攻撃を計画する反革命組織に関する情報をキューバ政府に供給する任務を受け入れた。五人自身の尊厳と強靱、キューバ政府のたゆまぬ努力、および彼らの釈放を要求する広範な国際的なキャンペーンは、二〇一四年十二月ついに、最後の三人—エルナンデス、ラバニーニョ、ゲレローの自由を勝ち取った。同日、ラウル・カストロとバラク・オバマ両大統領は、五十五年ほど前ワシントンによって断たれた二国間の外交関係の回復を発表した

クリントンからトランプ：米国労働者はいかに反撃したか

パネル参加者の伝記と発言の概要



マイケル・エスピノサ/フベンツド・レベルデ

二〇一八年四月のハバナ、キューバの会議のパネル。左から、ロヘル・カレロ（演壇）、ウィリー・ヘッド、ヴィクター・ガルシア（通訳）オマリ・ムサ、アリソン・ケネディ、ジェイコブ・ペラソ。

「クリントンからトランプ：ボス、彼らの諸政党、そして彼らの政府による反労働攻勢に、米国の働く人々は如何に対応しているか」これが、二〇一八年四月二四日－二六日ハバナで開催された会議における米国階級闘争のプログラムの第二部のタイトルでした。

パネルのメンバーは、作業農民とさまざまな産業で長年の経験を持つ四人の労働者を含んだ。各々のメンバーは、ボスの「生産性」と利益率を高めるための四十年にわたる攻撃が働く人々にもたらした具体的な結果を簡潔に述べた。もっと重要なのは、パネルのメンバーが、彼らと職場仲間がともに戦った政治的、社会的、そして労働組合の闘争について説明したことです。

パネル参加者の簡単な伝記を紹介したパンフレットがプログラム出席者全員に配布された。この伝記と発言の概要とが以下に続く。

アリソン・ケネディ



アリソンは、十四年経験のベテラン組合炭鉱労働者です。彼女は、石炭ボスによる地下採掘の仕事からの女性除外の壁を壊した、一九七〇年八〇年代の女性の最初の波に属した。彼女はウエストバージニア州から、アラバマ州、そしてユタ州の石炭採掘地域での米国鉱山労働組合の闘争に参加した。アリソンは、社会主義労働者党の二〇一六年大統領候補でした。今日彼女は、テキサス州ダラスに在住し、国際的小売チェーンのウォルマートで働く。

ハバナ会議でアリソン・ケネディは、一九七〇年代一般組合員による組合の管理の獲得を目指した「民主主義のための鉱夫¹」の運動の闘争勝利など、米国鉱山労働組合（UMWA）の戦いの歴史に焦点を当てた。一九七〇年代の組合民主化闘争から生まれた新しい組合指導部は、労働契約締結を一般組合員が投票で決める権利を確立した。強化された組合は、危険な条件下で生産作業を停止する権限を持つ炭鉱安全委員会の設置、およびその他の主要な要求のために戦い、それを勝ち取った。

また一九七〇年代、新たな連邦政府の雇用機会法は、女性を地下鉱山労働者として雇うよう石炭ボスに義務づけた。女性炭鉱労働者を鉱山から追い出す狙いの、石炭ボスによって助長された、性差別の嫌がらせ、その他の手段に対して彼女たちは立ち向った。彼女たちが立ち向うことをいかに学んだか、そしていかに組合の支持と男性の職場仲間の支援を得たかを、ケネディは説明した。職場への女性の参入がいかにUMWAを強化したかについて述べた。

ケネディはまた、三週間前彼女が参加した、オクラホマ州の教師や他の学校従業員のストライキの二万五千人の動員について語った。ウエストバージニア州のような労働闘争の伝統のないなかで、オクラホマ州の教師は、九日間学校を閉鎖し賃上げと学校予算の増加を獲得した。

¹ Miners for Democracy

オクラホマ州のストライキは、ウエストバージニア州の労働者階級の例に励まされて起こった教師の行動の波のなかで最も強力でした。教師と同様、ウォールマートの彼女の同僚の多くは、また買物客の多くも、生きるために複数の仕事をしているとケネディは説明した。それゆえ彼らは教師の戦いに共鳴し、それを支持した。

ウィリー・ヘッド



ウィリーは、長年ジョージア州南部で農業に従事している。百五十年にわたる黒人農民の自分たちの農地を守る戦いのベテラン。彼は十二年間、ジョージア州バルドスタ¹のコミュニティ組織、人民の法廷²、の副会長を務めた。この組織は、後ろ手に縛られた囚人を殴り殺した警官が法で裁かれることを要求して戦った。米国の多くの小規模農民と同じように、彼は一生を通じて、生活費を稼ぎ農業を続けるために、農業以外の多くの仕事（労働組合のある仕事やない仕事）をした。

ヘッドは、南部農村部での警察による暴力とアフリカ系アメリカ人の殺害、そしてバルドスタの人民の法廷の活動について述べた。その活動を、彼は「米国の裁判制度に対する最初の最前線の戦い」と呼んだ。

一世紀前アフリカ系アメリカ人は一千六百万エーカー以上の米国農地を所有していたと、彼は指摘した。今日その数字は二百五十万エーカーです。ヘッドは、一九九二年に始まった二万五千人以上の黒人農民の、銀行、裁判所、そして連邦政府農務省による差別に抗議する長い法廷闘争について詳述した。黒人農民が諦めて農地を売るよう圧力をかけたのだ。裁判所の判決は、彼のような農民にとって「勝った」にもかかわらず、以前よりも悪い状態をもたらした。そして、彼らは連邦政府農務省のローンや補助の資格も失った。

¹ Valdosta

² People's Tribunal

ヘッドは、生きるためにした数々の仕事について語った。その一つで、北フロリダへ毎日車で百八十マイル往復し、毎晩帰ってから家畜や作物の世話をした。「はい、キューバとは違って、米国では農民は土地を失う。」と彼は会議参加者に語った。「キューバの人々とその革命から学んだ事は私に大きな影響を与えました。」

ジェイコブ・ペラソ



ジェイコブは貨物鉄道の添乗員で、米国北東部最大の鉄道車両ヤードで SMART-TD 労働組合のメンバーです。彼は、米国および国際的な、青年社会主義者の活動のリーダーです。彼は以前、米国中西部の製肉工場で働き、組合を組織する戦いのいくつかに参加した。

ペラソは、鉄道産業のますます危険な状態について詳細に述べた。鉄道ボスは乗務員数を削減し、労働時間を十二時間まで延長し、訓練を減らし、労働者に対して安全検査に手を抜くよう要求する。彼は、カナダ、ケベック州の小さな町、ラク・メガンチック¹で二〇一三年起きた列車の脱線について語った。米国とカナダの国境のすぐ北のラク・メガンチックで、非常に可燃性のたかい石油を満載した貨物列車が爆発して、四十七人の死者をだした。特に重要なのは、鉄道会社が事故の責任を転嫁しようとする二人の労働者の有罪判決を、地元住民の陪審が拒否したことです。鉄道ボスの安全無視の証拠が出てくるにつれて、町民にとって誰に責任があったか疑いはなかった。

ペラソは、雇用者が従業員を分断するために使う、ボーナスシステム、格差賃金、その他の奨励金について語った。これらの手段で、仕事現場の一層の危険な状態を労働者に促進させようとさえする。このような圧力にもかかわらず、二〇一四年貨物鉄道の労働者は、列車乗務員一人制を鉄道ボスが開始するのを許可する契約を否決した。この契約否決は、雇用者の攻勢をおくらせはしたが、止めはしなかった。

¹ Lac Mégantic

労働者が自らの集団の強さを次第に実感する闘争の過程で労働組合を変革する必要性を、彼は指摘した。「職場で、我々は、労働運動の現状を、歴史を通じて説明します。」とペラソは言った。「資本家、彼らの諸政党、彼らの政府、そして彼らの国家に頼るなど、我々は説明します。労働者階級全体の利益を防衛する、資本から独立した政治的な進路—闘争の進路—をとる必要があります。」

ハリー・ダゴスティーノ



ハリーは、労働者、ベース奏者、バンドのリーダー、そして青年社会主義者です。彼と彼のバンドは、米国北東部、北中部全域で演奏する。彼は、直前になってハバナのパネルに出席不能となったが、彼の用意した発言は出席者に配付された。

何百万人もの青年労働者と同様に、彼は小店から倉庫まで、ありとあらゆる仕事をした。そしてまた、かれらと同様に、彼はほとんど常に、時間数や日数の保証なく、健康保険なく、有給休暇なく、また失業保険もなく、いつでも解雇できる「臨時雇用の労働者」でした。多くの若い労働者はまた、「政府と銀行によって「出世」する手段として駆り立てられた結果」の数万ドルに及ぶ学生ローンの負債に苦しんでいる。ほとんどの者にとって、ローンを完済する望みはないとかれは述べた。

彼は、ウエストバージニア州の教師のストライキの目を見張るような衝撃を説明した。彼と彼の世代は初めて、行動する労働者階級の力を見た。

「大規模な労働者の運動、州全域にわたる社会運動はまったく新しいものでした。」とダゴスティーノは述べた。「さらに、その運動の勝利は新しいものでした。この戦いを手本にして、私たちが戦いを組織する可能性を示しました。」

オマリ・ムサ



オマリは半世紀にわたって、鉄道と石油からアイスクリーム工場まで、カリフォルニア州からマイアミ州まで、あらゆる種類の仕事、労働組合のある仕事やない仕事、をした。彼は現在ワシントンDCに住み、ウォルマートで働いている。彼はアフリカ系アメリカ人の権利防衛の戦いの一生涯のベテランです。また、労働運動の内と外の両方で、キューバ革命を守るための戦いを長年指導した。

人種差別は増加傾向で、白人のほとんどの労働者—例えばウエストバージニア州やオクラホマ州でストライキした教師の大半は白人—は反動的だ、という米国の多数のリベラルやラジカルの主張を、ムサは取り上げた。ヒラリー・クリントンでなく、ドナルド・トランプが大統領になったのはそのせいだ、と彼らは言う。

ムサは、南部最深部のジム・クロウの制度化された人種差別の環境下で育った。当時と今の違いを知っている、と彼は述べた。これは、人種分離の体系を破壊し、労働者、黒人と白人の両方、の意識を根底から変換した一九五〇年代、六〇年代、七〇年代初期の大規模な黒人に先導された運動の結果、「米国で社会的な革命が起きた」結果だと指摘した。

「今日、労働人口はこれまで以上に、より統合されています。そして米国の歴史上、今日支配者が人種差別を使用して私たちを分裂するのはより困難です。」と述べた。「この社会革命は私たちすべてを強くしました。」

人種差別はまだ多く存在していると、彼は言った。このような分裂は、資本家の数千億の利益の源泉であり、資本主義の下では絶対に廃絶されない。しかし、人種差別や反黒人暴力は減少している。増加していない。「白人至上主義者のグループが組織した挑発行為、例えば二〇一七年八月バージニア州シャーロットツビル¹、は、数

¹ Charlottesville

百人の規模でした。数十年前の何千人の規模ではありません。凶暴な暴徒が街頭や住宅で黒人を襲うことはなくなりました。」一人の反対デモ参加者が殺されたシャーロットピルの挑発の一週間後、四万人が極右の行動を非難して、ボストンの街頭にくだした。

アフリカ系アメリカ人のサッカースター、コリン・キャパニック¹は、警察の殺人と人種差別主義者の暴力に対する抗議として、国歌斉唱の際に起立を拒否した。ムサはこの例を指摘して言った。「彼はすべての人種の何百万の人々のヒーローとなっています。」

ロヘル・カレロ



ロヘルは十五歳の時、家族とともにニカラグアから米国に来了。ミネソタ州とアイオワ州の製肉工場で働いた。国際食品商業労働組合²の組合員で、組合組織化や移民労働者の権利擁護の組合の戦いに参加した。二〇〇二年、米国政府は、彼を逮捕し強制送還しようとした。多くの組合の支持を得た国際的な防衛キャンペーンが成功裡に戦われた。彼は、二〇〇四年と二〇〇八年の社会主義労働者党の大統領候補でした。

カレロは、移民労働者の防衛が労働運動に与える重要性について焦点をあてた。ドナルド・トランプ政府が強めつつある、移民に対する攻撃の背後にあるものを説明した。米国労働者階級が、何百万もの外国生まれの労働者の編入によって、いかに強化されたかを説明した。

労働運動と労働者の大多数を、移民労働者の防衛に向けて勝ち取るための政治的闘いは、「労働者階級にとって、生きるか死ぬかの問題です。」と彼は言った。

¹ Colin Kaepernick

² United Food and Commercial Workers (UFCW)

移民者のスケープゴートは、支配階級とその諸政党が労働者階級を分裂し弱めるために使う最大の武器です。

反移民の偏見の源泉は労働者階級ではないと彼は指摘した。黒人や女性に対する差別と同様、このような偏見を促進し利益を得るのは雇用ボスです。ボスは、一九八〇年代食肉加工産業でしたように、労働者間の競争を増加させ、組合を破壊し、賃金を引き下げ、労働者階級の搾取を激化するのに、移民労働を使う。

「労働組合による、労働者階級全体の利益を守るための効果的な戦いそれは書類なしの移民労働者の組合組織化の戦いを含むーがないため、移民者のスケープゴートは労働者階級の一部に共鳴しています、」とカレロは指摘した。「しかし、これらの態度は、労働力を売る競争からきています。人種差別からではない。」

米国の支配者の目的は、移民の流入を断絶する事ではない。米国の支配者の目的は、彼らが常におこなってきたように、必要に応じて移民の流入を加減する事です。「トランプ大統領や彼の周りの人びとの低俗な偏見、彼の「壁を構築」の扇動、過酷な拘留、強制捜索、強制送還、職場における移民監査、およびその他の抑圧的な措置は、移民労働者だけではなく、すべての働く人々の不安と恐怖を高めるのを目的としています。」

しかし、恐れに駆られているのは支配者自身です。階級闘争の激化と、米国生まれと外国生まれの労働者が勝ち取る団結に対する恐れに、彼らは駆られている。中西部の製肉工場で、ユタ州の石炭鉱山で、および他の労働闘争社会闘争で、私たちはこれを目撃した。

「書類なしの移民労働者の恩赦を獲得し、移民の権利を防衛する政治的な戦いは、労働者階級全体の統一を勝ち取る戦いと不可分です。」とカレロは述べた。

「階級全体の利益のために戦う労働組合運動を構築することが必須です。」

米国鉱山労働組合の戦いの歴史

ラジオ・ハバナ

この米国鉱山労働組合（UMWA）の労働闘争の報告は、一九八一年三月二十七日全世界で放送されたラジオ・ハバナのプログラムから抜粋したものです。この英語の報道は、十六万人の組合鉱山労働者がストライキを開始した日になされた。次の十週間の対立は、石炭ボスの組合をぶちこわす試みを押し返した。

炭鉱労働者との連帯を呼びかけた、キューバのプログラムは、以前の二つのUMWA ストライキに焦点をあてた。

一九六九年ウエストバージニア州で起きた第一のストライキは、黒肺疾患の惨害を抑制する諸対策、および鉱山の労働条件の管理のより多くの権限を組合安全委員会に与える諸対策を石炭ボスがとるよう同意させた。

一九七七年一七八年の、第二のストライキは、米国の歴史の中で最も長い石炭ストでした。全国の石炭鉱山の炭鉱労働者は、ラジオ・ハバナが指摘するように、組合の存在そのものを守るために百十一日間の戦いを遂行した。この過程で炭鉱労働者は、民主党大統領ジェームス・カーターのタフト・ハートレー¹「奴隷労働」法による仕事に戻る命令を公然と無視した。

一九三五年、米国鉱山労働組合は、米国で最大かつ最も強力な産業別組合でした。一九〇〇年以前に南部で人種統合された組合支部を組織することに成功したのは、炭鉱労働者だけだった。そして、炭鉱労働者は一八九八年一日八時間労働制を確立した最初の産業労働者でした。

一九二〇年代にほとんど破壊された後、UMW は一九三三年から一九三五年にかけて再編され、産業別労働組合会議（CIO）の設立のバックボーンとなった。炭鉱労働者は、全国の基幹産業の組合組織化のための資金と組織者の両方を提供した。

炭鉱労働者は第二次世界大戦中に雇用者と公然と戦った少数派の労働者でした。

¹ Taft-Hartley “Slave Labor” Act

最近の歴史の中で、政治的に非常に重要な二つの UMW のストライキがあった。一九六九年と一九七八年、炭鉱労働者は米国労働者にとって重要なすべての問題ととりくんだ：健康、安全、給付、賃金、物価、そして、特に強力な労働組合の存続にかかわる、一般組合員の運動の存続が可能か否かの問題。

一九六九年二月から三月、ウエストバージニア州で、州の二万五千人の炭鉱労働者の九五パーセントが三週間以上、鉱山をでた。彼らは、州議会に新たな炭鉱安全衛生法の通過を余儀なくさせた。

同じ年リチャード・ニクソン大統領は、連邦炭鉱健康安全法¹に対して、拒否権を行使しようとした。しかし、炭鉱労働者はまたストライキにでると脅して、黒肺疾患の被害者に初めて補償を提供した歴史的な法案に署名させた。

黒肺協会²は、ウエストバージニア州の炭鉱安全衛生法の成立を勝ち取るために、一般組合員によって一九六九年一月結成された。そして、黒肺協会はまもなく、組合ボスによって会社に裏切られた現役や引退退職した組合炭鉱労働者の利益の代弁者となった。

ストライキはまた、ジョセフ「ジョック」ヤブロンスキー³が組合委員長選でトニー・ボイルに挑戦するよう促した。「ボイルは、石炭ボスとベッドに一緒だ。」のスローガンで、ヤブロンスキーは強力なキャンペーンを実行し、一二月の委員長選挙の後も戦いを続けることを明言した。彼はボイルが雇った殺し屋のよって、一九六九年最後の日に暗殺された。しかし、民主主義のための鉱夫（MFD）が、彼の葬儀において結成された。

一九七〇年六月、一般組合員による三番目の組織、ウエストバージニア州南部障害者炭鉱労働者と未亡人⁴、がもう一つのストライキから生まれた。この三つの組織が合同して、一九七二年五月のウエストバージニアでの組合大会で、民主主義のための鉱夫の候補者を支持した。

一二月組合員は、組合の歴史上初めて、九人の一般組合員の炭鉱労働者を [MFD の候補者から]、国際組合役員に選出した。

¹ Federal Coal Mine Health and Safety Act

² The Black Lung Association

³ Joseph “Jock” Yablonski

⁴ Disabled Miners and Widows of Southern West Virginia

組合は、この選挙での勝利によって非常に強化された。いま、組合の二十一の地区のすべての役員は、選挙の時、地区の一般組合員に回答しなければならない。ボイルの下では、国際組合から完全な自治権をもっていたのは四地区だけだった。

一九七二年、MFD の候補者は以下の政策綱領をもって戦った。地区役員と理事会会員の選出制、一般組合員による組合契約の批准、危険な条件下での仕事の拒否を理由の解雇の廃止、各々の鉱山に専任の組合安全委員を設置、地域の紛争への全国組合と地区組合の支援、雇用や解雇における差別の禁止、組合契約の均一的な施行、引退退職した炭鉱労働者の年金の増加、組合福祉基金の責任ある管理。また、上部組合幹部の給与を削減することも約束した。

ボイルは、MFD 候補のアーノルド・ミラー¹、黒肺疾患の元炭鉱労働者で二十四年間電気技師として勤務、によって失脚された。新たな体制が敷かれた。

一九七四年、炭鉱労働者は、八十四年の組合史上初めて、組合契約の批准の投票をした。極少数の選ばれた交渉担当者が、鉱山地域から何百マイルもはなれた煙に満ちた部屋で、何千もの炭鉱労働者の利益を売り渡すことは最早できない。

炭鉱労働者は、一九七五年、七六年、七七年の夏期、かれらの戦闘性を明示した。一九七五年と一九七六年、ウェストバージニア州で始まった地域の紛争は、石炭ボスが鉱山での苦情に対処するのを拒否するのに抗議して、鉱山地域全域にわたるストライキに拡大した。石炭会社は、組合との争点を協議せず、連邦政府のスト差し止め命令、罰金、逮捕、そして解雇の脅しをもって、職場に復帰させようとした。

一九七五年、八万人の炭鉱労働者がストライキをした。一九七六年、十二万人、ミシシッピ川から東のほとんど全ての組合炭鉱労働者、がストライキをした。一九七六年のストライキは非常に効果的で、ウェストバージニア州チャールストンの連邦判事は、罰金金額および罰金命令を撤回した。これは近代労働史上まれにみる出来事でした。

一九七七年、炭鉱労働者は、医療保険の削減に抗議して再度ストライキにはいった。医療保険は、病院が現金なしの緊急患者をみるのを拒否するアパラチア山地南部の危険な産業にとって非常に重要です。

そして一九七八年、UMW のストライキは、米国における中心的な階級問題

¹ Arnold Miller

「ウェストバージニア、米国における石炭鉱業の歴史的な中心部、は米国の歴史中で最も激しい労働闘争の戦われた場所でした。」



ステュ・シンガー/ミリタント

スティーブ・マーシャル/ミリタント

上：一九八一年三月。炭鉱労働者のワシントンでの抗議行動。数週間後、十六万の炭鉱労働者はストライキに入り、雇用者の譲歩の要求を押し返した。一九六十年代、七十年代、八十年代に炭鉱労働者とコミュニティの努力によって減少した致命的な黒肺疾患は、ボスが新しい方法を使って石炭生産と利潤を増やし、過去に炭鉱会社の資金で運営された地域の健康診療所が閉鎖される中で、今日再び増加している。

下：米国鉱山労働組合の組合員や支持者は、一九八九年の十一月のカ月のストライキの時、バージニア州のピッツトン炭鉱を閉鎖した。

「炭鉱労働者は一九〇〇年以前に南部で人種統合された組合支部を組織し、一八九八年一日八時間労働制を確立した最初の産業労働者でした、」とラジオ・ハバナの放送は説明した、「一九六十年代と七十年代のストライキで、炭鉱労働者は米国労働者にとって重要なすべての問題ととりくんだ：健康、安全、給付、賃金、物価、そして、強力な労働組合の存続。」

「炭鉱労働者は第二次世界大戦中に雇用者と公然と戦った少数派の労働者でした、」とラジオ・ハバナは指摘した。



一九四三年、炭鉱労働者は帝国主義政府の戦時中の賃金凍結とボスの危険なスピードアップと安全無視に反対して四つの全国ストライキをおこなった。米国政府が他の事実上全て産業の労組幹部から勝ち取ったストライキをしないという約束を、彼らは拒絶した。

上：一九四三年オハイオ州の炭鉱労働者は、第二次大戦時にストライキをする炭鉱労働者を軍隊を使って排除するという政府の脅かしに対する、UMWA 会長のジョン・L・ルイスの公然とした反抗を報道する新聞の見出しを読む。「銃剣で石炭は採掘できない！」と炭鉱労働者は答えた。

として登場した。炭鉱労働者は、自身の労働組合の存続のために、そして全国の他のすべての労働組合の存続のために戦った。

UMW に対する攻撃は、労働運動全体に対する攻勢の一部でした。この年、全米製造業者協会は「組合のない環境に関する審議会¹」を設立した。その一年前

¹ the Council for a Union-Free Environment of the National Association of Manufacturers

、製鉄会社は、全米鉄鋼労働組合の委員長選挙で、一般組合員からでた候補者[エド・サドロウスキ]の敗北を画策した。

企業が炭鉱労働者と対決する決定をしたその主な理由は、労働組合の民主化のための一般組合員の闘争を打ち破ることだった。ストライキ前とストライキ期間中の団体交渉は、この企業側の新しい方向を反映していた。

企業は、労働者の既存の利益を奪う独自の要求で武装して、譲歩を決してしない決意をして交渉のテーブルに来ました。これが、様々な業界の交渉で使われだしたギブバックの方策です。

炭鉱労働者は、この企業の方策を止めるのに完全には成功しなかったが、特定の重要な領域では勝利した。UMWを実際に破壊するという主要なねらいに、企業は失敗した。炭鉱労働者はまた、ストライキ権の防衛に成功し、スト破りのタフト・ハートレー法を非常に弱めた。さらに、彼らの努力は、労働運動全体に広く肯定的な効果をもたらした。

UMWの交渉チームがワシントンで、交渉のテーブルに座ったとき、彼らは表面上は石炭のオペレーターと対応した。過去、その用語は石炭鉱山会社を意味したが、業界の首席交渉代表のジョセフ・P・ブレナン²は、実は巨大銀行が管理するぼう大な多国籍企業を代表した。

最大の石炭会社、ピーボディ³、は完全にケネコット銅会社の管理下にあり。そして、ケネコットはモルガン銀行とグッゲンハイムが支配する。

第二の石炭会社のコンソリデーション⁴は、コンチネンタル石油会社が所有する。コンチネンタルは、アフリカをはじめとする海外の土地を保有し数十億ドルの資産を持つ。コンチネンタルは、一九一一年のトラストの名目上の解散以前は、ロックフェラーのスタンダード石油会社の一部でした。現在ロックフェラーとモルガン銀行がその管理を分割し、ピッツバーグのメロンズが二次的な発言権を持つ。

¹ Ed Sadlowski

² Joseph P. Brennan

³ Peabody, Kennecott Copper Company, Morgan, Guggenheims

⁴ Consolidation, Continental Oil Company, Rockefeller's Standard Oil Company, Mellons

第三の石炭会社、アイランド・クリーク¹は、オクシデンタル石油会社によって所有される。その後には、J.P.モーガンによって設立され、非常に多くの鉱山資産を持つ米国鉄鋼会社、ベツレヘム鉄鋼会社、そしてエクソン、モービル石油、ガルフ石油、その他の石油大手、大きな電力会社によって完全に所有されている多くの石炭会社が続く。

炭鉱労働者がストライキを始めた時直面したのは、独占資本の大量の集中したパワーだった。

炭鉱労働者の一九七八年の闘争は、労働組合運動の新たな状況を作り出した。大企業の攻勢に真のショックを与えた。すべての労働組織に対して開始された凶暴な反労働の攻撃を鈍らせた。タフト・ハートレーによるスト差し止め命令によってストライキを打ち破ろうとする政府の企てを無視することによって、この危険な反労働法律に警告打撃が当たった。

労働者のストライキの基本的な権利の防衛は、すべての産業の労働者に肯定的に影響した。ストライキの過程で、鉱山や石炭資源の公有の必要性が、多くの労働者にとって重要な問題となった。なぜこのような重要な天然資源が、大手石油会社、電力会社、鉄鋼企業、大銀行の制御の下にあるべきなのか？

一九七八年の米国鉱山労働組合のストライキは、資本主義の下では、労働者はどの様な前進のためにも戦わなければならないという既知の事実を再び示した。それは戦うか、あるいは退歩するかだ。勝利を獲得するためには戦わなければならない事を、炭鉱労働者は明示した。

¹ Island Creek、Occidental Oil Company、US Steel Corporation、Bethlehem Steel、Exxon、Mobil Oil、Gulf Oil

“Without understanding the devastation of the lives of working-class families in regions like West Virginia, and the vast increase in class inequality since the 2008 crisis, you can’t understand what’s happening in the United States.”

A giant has begun to stir. Hillary Clinton calls them “deplorables” who inhabit “backward” regions between New York and San Francisco. But tens of thousands of teachers and school employees from West Virginia, Oklahoma, and beyond set an example in 2018 with their victorious strikes. Working people across Florida mobilized and won restoration of voting rights to more than one million former prisoners.

Drawing on the best fighting traditions of the oppressed and exploited producers of all skin colors and national origins in the US, they fought for dignity and respect for themselves, their families, and for all working people.

Pathfinder

PATHFINDERPRESS.COM

COVER DESIGN: Toni Gorton
PHOTOS: Alex Siltz/Associated Press (front);
Itzhil Yisrael/Florida Rights Restoration
Coalition (back)

ISBN 978-1-60488-107-3



9 781604 881073

US\$7 • £6



裏表紙

「ウエストバージニア州のような地域における労働者階級家庭の生活の荒廃や、二〇〇八年の金融危機以降急速に増加する階級の不平等を理解せずに、米国で何が起きているのか理解することはできないでしょう。」

巨人が動き始めた。ヒラリー・クリントンは彼らをニューヨークとサンフランシスコの間の「後進」地域の住む「嘆かわしい者の群」と呼んだ。しかしウエストバージニア州、オクラホマ州、その他の数万の教師と学校職員は、彼らのス二〇一八年トライキの勝利をもって模範を示した。フロリダ州全域の働く人々は、百万以上の元囚人の選挙権の回復と勝ち取った。

米国のあらゆる肌の色とあらゆる出身国の抑圧され搾取される生産者の最良の戦いの伝統をもって、彼らは、彼ら自身、彼らの家族、そして全ての働く人々の尊厳と尊敬のために戦った。

資料

・本パンフ『米国の労働者階級を擁護する』は米国の活動家メアリー・アリス・ウォーターズ女史が、2018年4月にキューバで開催された「キューバ労働者中央組織（CTC）とキューバ歴史研究所が共催した国際メーデー科学会議」で行った講演をもとに、2019年2月発行されたものです。訳は米国在の Ken Kawakubo 氏です

・米国の大統領選狂騒が日本でも大量にマスコミを覆っていますが、米国の労働者たちの姿が見えてきませんので、やむにやまらず、資料を製作しお送りしました。入手してから1年以上経て、少し時間がたってしまいましたが、一読ください。

製作：IFCC 国際友好文化センター、日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）

TEL03-3268-4387 FAX03-3268-6079

PCemail: jvccpf@mail.plala.or.jp

製作日：2020年11月4日

頒価：無料（送料無料）

※IFCC 鎌田はPCメールで情報発信しています。PCメールが不可の方々にはFAX送信しますのでFAX番号をお教え下さい。